

地震後の降雨による土石流について

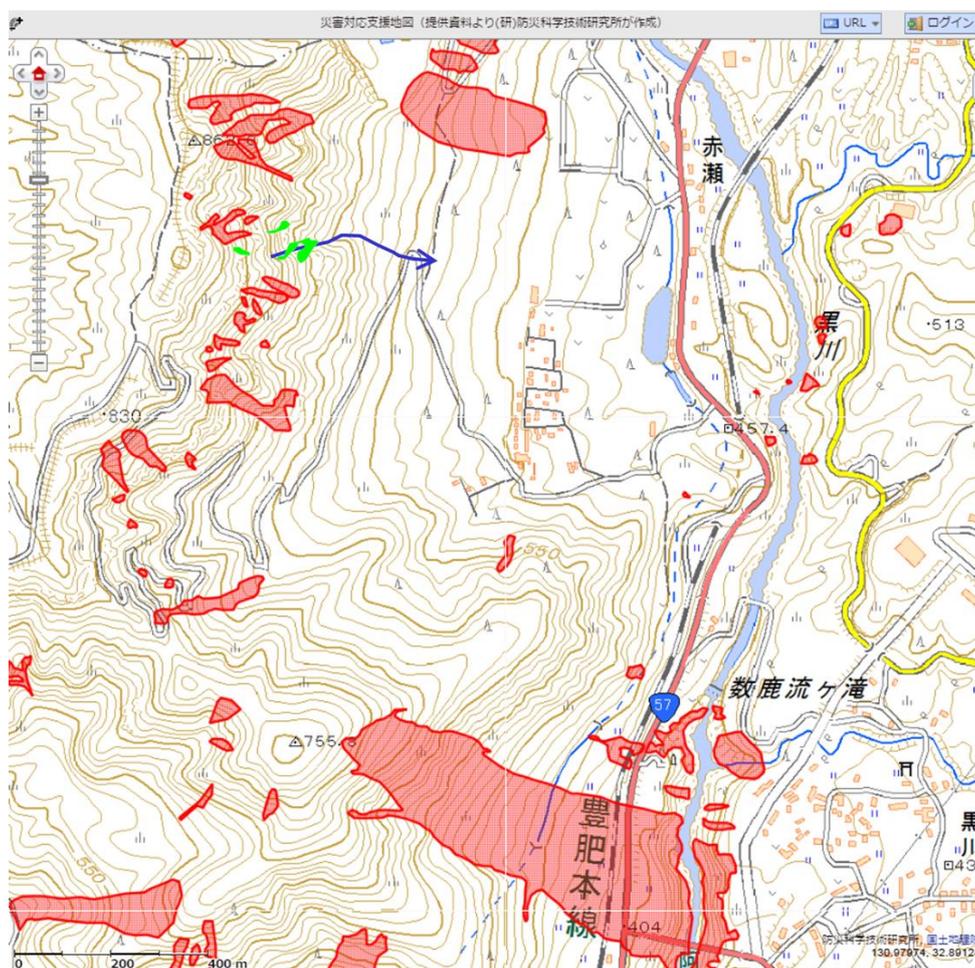
5 月 21 日に防災科研が実施した現地調査によって、南阿蘇村赤瀬（阿蘇大橋の西北西）において、地震後の降雨によって発生したと考えられる土石流が確認されました（図の青矢印）。この土石流は、地理院地図に掲載されている空中写真（4 月 20 日撮影、西原 2 地区）とそれに基づく土砂移動分布図（5 月 2 日更新版、図の赤範囲）では確認されていません。この土石流により道路が閉塞されました（付図 a, b）。

崩土には笹ダケのように成長が早い植生が一部生えており（付図 c）、4 月 20 日以降、今回の調査（5 月 21 日）までの約 1 ヶ月間の降雨により新規に発生した土石流と考えられます（この間の最大雨量を記録した 4 月 21 日（アメダス南阿蘇の日雨量 113 mm、最大 1 時間雨量 24.5 mm）に発生した可能性が高い；付図 d 気象データ参照）。4 月 20 日撮影の空中写真を詳細に判読すると土石流が発生した流路脇では地震によって小規模な斜面崩壊（図の黄緑の範囲）が発生しており、この崩土が流動化することで土石流となったと考えられます。

このように、地震により崩壊が発生した場所やその周辺の地盤が緩んだ場所では、100 mm 程度の降雨でも土石流が発生する可能性があります。十分に注意してください。

（担当:防災科学技術研究所 社会防災システム研究部門 山田隆二
水・土砂防災研究部門 若月 強）

図. 土石流発生場所



付図：土石流現場写真と気象データ

a.



地震後の降雨によって発生したと考えられる土石流（5月21日撮影）

b.



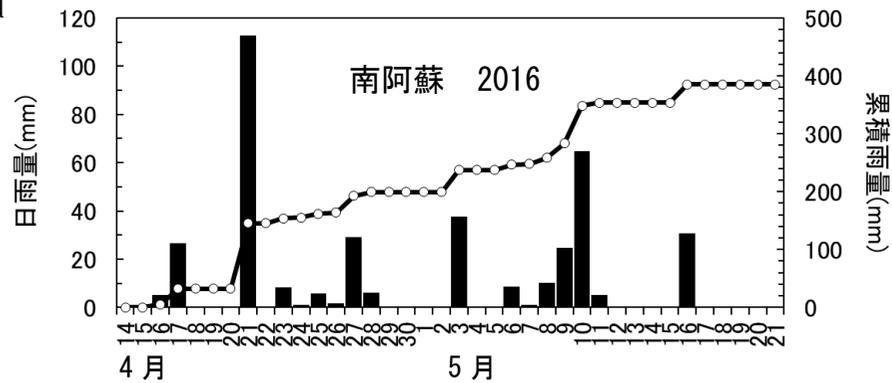
土石流によって閉塞された道路（5月21日撮影）

c.



崩土の中から回復しつつある植生（5月21日撮影）

d.



アメダス地点「南阿蘇」における日雨量と累積雨量